

2019年10月 台風19号被災資料の救出と活用

趣旨 台風19号は、茨城県内で1063棟もの床上浸水の被害をもたらした。とくに、久慈川と那珂川の水系で12ヶ所の堤防決壊が起こったほか、各地で越水も相次ぎ、浸水や土砂崩れの被害が広がった。そのなかで古文書や掛け軸、民具など、地域社会や家族で守り継がれてきた歴史資料も水濡れや汚損などの被害を受けた。茨城史料ネットでは、学生や市民、自治体や博物館等とも協力して、それら被災資料のレスキュー活動を行った。現在も、救出した歴史資料の整理を続けるとともに、被災資料から明らかになった歴史を市民に公開する活動を続けている。

被災状況

①水戸市



那珂川そばの薬師寺に収められていた寄進札や祭りの道具
(2019年10月18日、茨城史料ネット撮影)

②常陸太田市



水に浸かった状態で発見された江戸時代の版本類
(2019年11月1日、茨城史料ネット撮影)

③常陸大宮市



災害ゴミ置き場から発見された明治期の古文書群
(2019年11月5日、常陸大宮市文書館撮影)

④大子町



水損して屋外に積み上げられた大子町役場の公文書
(2019年10月15日、藤井達也撮影)



「台風19号 久慈、那珂川12カ所で堤防決壊」
(東京新聞web, 2019年10月16日)

水戸市下国井町でのレスキュー

那珂川の洪水被害を受けた個人宅から

- ・下国井村の村役人、村長や県会議員を務めた家
- ・那珂川堤防の溢水により床下浸水
- ・家族が納屋から資財を運び出す際に、古文書を発見
- ・茨城史料ネットに連絡があり茨城大へ
- ・定例資料整理活動の中で
クリーニング→目録作成→写真撮影

経験の蓄積から生まれた成果

- ・公的機関・博物館との連携によるスムーズな史料レスキュー
- ・関東・東北豪雨災害でのレスキュー経験を活かし、水損史料の吸水や乾燥作業をスムーズに実施



①水戸市立博物館とともに、上国井地区を中心に数ヶ所で被災資料の救済・保全。



②下国井個人宅から連絡を受け、数百点の古文書を発見。

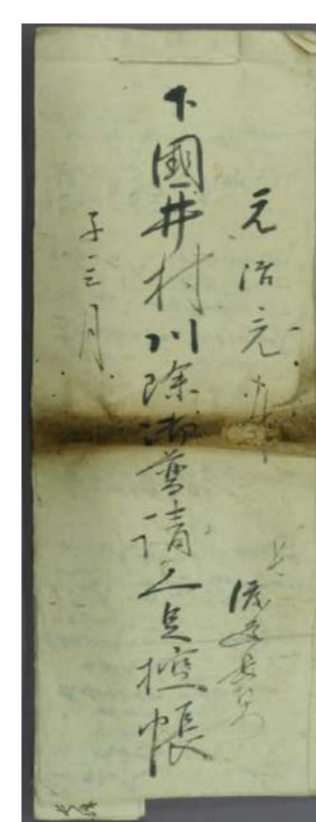


③薬師寺では水損した大念珠や寄進札等の応急措置。



④茨城大学での定例資料整理活動へ。

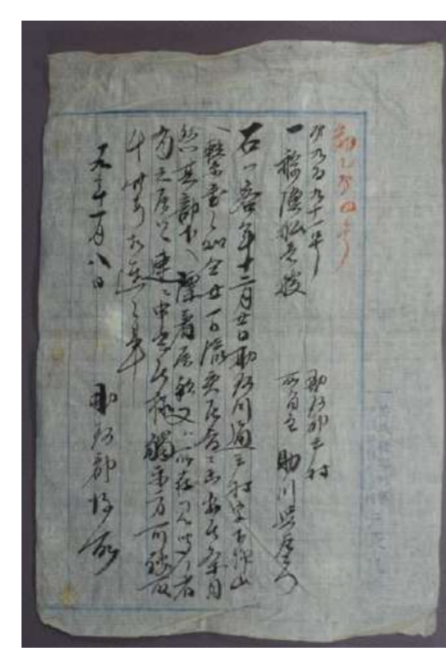
被災資料が語る那珂川流域の歴史



幕末にも行われた那珂川の「護岸工事」

下国井村付近で行われた那珂川の川除普請（洪水防止のための浚えや堤防修築の工事）に要した人足の数や用途を書き上げた文書。竹を調達しての杭打ちや蛇籠を製作して堤防を補強する工事が行われたことがわかる。川除普請は人手を必要とする大規模工事であったため、近隣の村々から人足を動員して行われた共同作業であった。本工事でも中里村・戸村・田島村・古徳村など、下国井付近の村々から人足を集めたことがわかる。

下国井村川除御普請人足控帳 元治元（1864）3月 個人蔵



川船が流されてしまったときの対応

那珂郡戸村（那珂市）の助川与左衛門が那珂川の岸に舁（はし）け漁船一艘をつないでいたところ、流出してしまう事件が発生した。与左衛門の訴えを受けた那珂郡役所は、所在を見聞きした者は郡役所まで届け出るように伝えている。明治期には、所有船流失の際に、郡役所が主体となって目撃情報を集め、解決を図っていたことがわかる。

那珂郡役所通達 明治19年（1886）1月8日 個人蔵

研究成果の発信

水戸市立博物館 特別展

那珂川ヒストリー 水と共に生きた人々
2023年2月4日（土）～3月12日（日）
※茨城史料ネットが台風19号の際にレスキューした上記の史料も展示される予定です。

講演会 3月11日（土）13:30～15:00

藤井達也（水戸市立博物館）

水戸城下の水害史 水害記録を読み解く



茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク

〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1茨城大学人文社会科学部添田仁研究室

E-mail: hitoshi.soeda.carp@vc.ibaraki.ac.jp

公式HP: <http://ibarakishiryu.web.fc2.com/>

Twitter: @ibaraki_s_net

Facebook: <https://www.facebook.com/茨城史料ネット-531420180300292/>

文責: 尾崎紗耶香、藤井達也、高橋修、添田仁